遊You米News
産地情報発信紙
発行元
遊佐町共同開発米部会
2006年2月23日発行日

平成17年産米を振り返って

平成18年を迎え、昨年の稲作を振り返ってみたいと思います。特筆すべき点は、開発米の約70%（約700ha）が一度に特別栽培米に変わったことです。８成分の実験を続けてきてはいたものの、これほどの面積がになるとは私たちの予想以上でした。もう１点は、特別栽培米用に肥料の中身についても遺伝子組み替えされた物を使用しないとの決意より、アブラ粕については米澤製油社製のアブラ粕を使うと共に、その他使用資材についても同じ考え方に立ち、肥料を作り使用しました。３月になってからの大雪と嫌な予感をさせるスタートでした。特に田植え最盛期は天候に恵まれず、田植え後の茎の増え方が少なく心配されましたが、組合員の方々の適切な管理やその後の天候も安定し、ほぼ平年並みの出穂を向かえました。収量（作況）については101とほぼ平年並みでしたが一部の田んぼではカメムシの被害があり、等級が落ちるものもありました。特別栽培米のスタートした中で、除草剤の効果や、カメムシの食害、肥料の効果等、課題もありますが、農薬の使用量を極力減らす事を目標に今後も進めていきます。

遊佐営農課　佐藤　秀彰

飼料用米を作ってみませんか？

遊佐町では、転作作物として、飼料用米の作付拡大を推進しています。生産された飼料米は、畜産業者に供給され、「米で生産された精肉」として、生活クラブに届けられます。

WTO 香港会議に行ってきました!!

２００５年１２月に、WTO香港閣僚会議に抗議するNGO行動に参加してきました。

現地に行くまでは、抗議行動なのでエイエイオーと反対運動をするのかな？と思いながら向かったのですが、実際の抗議行動は、世界の色々な人たちが集い、反対していることにあらためて気づかされました。日本の現状よりも、発展途上国では、もっと打撃を受けている部分が大きいとケニアの記者からインタビューを受けて知ることができました。

関税を排除すると、輸入の安い品物が一般化することにより、その国の農業は滅びて行くことになる。一番得をするのは、最終的に消費者ではなく、大企業が利益を得る構造になっているのです。

日本の関心事項は、重要品目・上限関税、国際的には輸出補助金の動向でしたが、今回の会議での決定は見送られ、今後4月末にヤマ場を迎えることになりました。

私たち遊佐町共同開発米部会は、生活クラブ生協と共に歩んできた、生産者と消費者が共に同じ方向を見据えて行動してきたことが、どれだけ価値があることか、今回香港で改めて思いました。消費者と生産者が強い意志を持って戦うことが、WTOに勝てる唯一の対抗策だと思います。

産地別推進会議報告　18年産米 16,600円

2005年度産地別推進会議「遊佐」は６月・12月・18年２月の３回行われました。

● **6月**　今年度の生産計画と玄米価格が指標価格と10%以上格差が出たため、協議を行いました。全体的に台風被害を受けた16年産は集荷数量が少なく、４月以降まで残っている一般栽培「遊you米」価格のみの協議が行われ、500円/60kg引きの16,100円/60kgに変更することになりました。

● **12月**　17年産収穫予定数量の報告とプロジェクト案の検討、18年産玄米価格の提示を行いました。提示価格「遊you米」18,297円/60kg、「特別栽培」20,437円、「無農薬米」32,855円です。次回の推進会議で価格を決定することになりました。

● **2月**　18年産作付け計画および18年産価格協議を中心として、基金の残金報告を行いました。生産計画は「遊you米」25,100俵、「特別栽培」72,400俵、「無農薬」1,220俵、「ササオリジン」4,500俵の合計103,220俵を生産予定としました。18年産米価格は「遊you米」「ササオリジン」16,200円/60kg、「特別栽培」16,600円、「無農薬」25,900円とし、指標価格と10%以上開いたときは協議することで決定しました。

「開発米プロジェクト」始動!!

2004年7月開催の遊佐産地別推進会議で、2005年度に「共同開発米プロジェクト」を開始することとした事項に基づき、生活クラブ6名、遊佐9名の計15名のメンバーで7月、10月、11月の3回の会議を行い、今後の「共同開発米づくり」について、現状と今後の課題整理も含め「プロジェクト案」をまとめ、2005年12月開催の推進会議で「答申」を検討し、意見や修正を加え、共同開発米の事業方針と致しました。

その内容は、●「遊you米」特別栽培の取り組み拡大●提携事業の推進●将来の遊佐農業等数多くの項目が整理され、それらの方向性が盛り込まれました。その中で「遊佐町共同開発米部会」が遊佐でリーダーシップをとりながら、大きな推進力となり、継続した農業を行い、日本の食糧基地としての地位を確立していくことを双方の組織において討議し、方針化をしていくことが確認されました。

遊佐営農課　今野　忠勝